

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100091		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	有限会社 ふるさと		
所在地	安中市鷺宮1956-1		
自己評価作成日	平成29年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ターミナルケアを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「地域の方々との交流を図る」を掲げ、地域とのつきあいを大切にして、事業所として自治会の会議や行事にできるだけ参加をするとともに、職員は日頃から地域の方と挨拶や会話をするよう努めている。そうしたことを通して、運営推進会議で地域の方から近隣の会議への参加についての助言や火災が発生した場合の協力を前提とした意見をいただいたり、利用者の見守りという面で利用者が外出してしまった際には地域の方が事業所に連絡をしてくれたり、地域との協力関係が築けている。利用者に対する医療や健康管理に関しては、協力医や訪問看護師との連携がとれており、特に、医療の面では、夜間の対応をはじめ必要があれば電話でも医師が直接利用者本人の訴えを聞いてくれるなどの協力関係が築けており、利用者が適切な医療を受けられる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内容を理解してもらい理念を数ヶ所かかけ共有している。会議時にも確認している。	朝のミーティングや会議の際に、理念にある「地域の方々との交流」や「利用者の安心」「健康的に暮らしていく」の具体化について確認し合うとともに、どうしたらより共有ができるか、日々の具体的ケアにつながる理念となるか、検討をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近所の方々と必ず挨拶をしている。町内の回覧をまわしてもらい、地域の行事に参加させられている。(城山公園秋祭り他)	事業所は、地域との交流を深めるため自治会の会議や道路清掃の行事にできるだけ参加し、職員は地域の方と会えば必ず挨拶をして、会話をするように努めている。また、事業所行事の納涼祭には地域の方に参加していただき、利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の様子、介護保険に関する質問を頂きお話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市介護保険課の方、地域住民の方、利用者家族の方の出席をお願いし、2ヶ月に1回年6回開催し、報告を行い、意見要望に添える様取り組んでいる。	区長や民生委員、地域の方には、その都度訪問して出席依頼への働きかけを行っている。会議では、地域の方から火事の際にはどのように協力をすればいいのか質問が出されるなど、地域とのつながりの中での意見交換が行われている。家族には電話で参加を呼びかけているが、参加が得られていない。	家族の参加について、それぞれ事情があり参加が難しい状況ではあるが、引き続き様々な工夫をしながら家族とのよい関係を築き、まずは一人でも参加してもらえるよう取り組みを進めていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市のサービス調整会議に出席し、市の担当者、民生委員等より意見アドバイスを頂いている。	運営推進会議だけでなく、市で開催されるサービス調整会議では、事例を示しての虐待防止のアドバイスや制度変更があればその手続の助言をもらっている。日頃から必要があれば訪問し、介護保険関係以外のことも含めて相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員理解し、取り組んでいる。	身体拘束が必要な利用者については、面会時に家族に利用者の状態、状況を見てもらい、そのうえで身体拘束の必要性や具体的内容、期間などについて細かく説明し同意を得ている。職員間では会議などで事例を出して確認し合うとともに、利用者の状態の変化に迅速に対応できるよう情報の共有に努めている。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修に出席して、学んでいる。職員はこの件について、注意を払って、日常業務についている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に理解を得られるよう説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に意見、苦情を提出して頂けるようにしている。	職員は、家族と関係を築きながら、面会時などに意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。面会に来るのが難しい家族に対しては、電話などで利用者の気持ちや様子などを伝え、要望があれば聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務において、常に受けている。	常に意識して職員が意見を出しやすい職場環境となるよう努めており、必要があれば個人面談を行い、利用者のケアや職員の勤務体制などに関しての意見や要望を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護技術の勉強、職員全員の研修を受けられるようにする。 職員間の交流を図る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を確保している。 管理者、基礎研修等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、市のサービス調整会議に出席し、他の施設の職員との意見交流に努め、又は勉強して、レベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から情報収集及び、利用者様からの訴えをじっくり聞く習慣を、職員全員が持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時や、電話をする等、いろいろな機会に会話や報告をするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活をされている時の利用者様を観察し、相談を受けた時に十分に納得されるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族からの情報、本人からの訴えをよく聞く事を基本とし、今までの生活歴を知っておく。 話を聞いたり、ペットの猫と過ごされたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と出来る限り連絡を取り合っ、本人と家族にとってベストな支援をするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に、家族・知人の面会をしていただけるようお願いしている。又、外出を希望した時は、応えるようにしている。	家が近くにある利用者にはドライブをしながら自分の家の様子を見てもらうなど、利用者の気持ちや状態に応じた支援に努めている。また、面会が難しい家族に対しては、事業所としても関わりを持ちながら継続的に利用者の様子を伝えるなど、家族との関係が途切れないよう支援にあたっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	信頼関係が保たれるよう、利用者同士うまく交流出来る様に常に気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、相談等は常時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、意向には可能な限り気配りをしている。 本人の希望に応えている。	ほとんどの利用者は会話が可能であり、日頃の会話から、外出や食事など利用者の意向や希望を把握している。そうした情報は職員間で共有しながら、時には家族の協力も得て応えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報を聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に合わせてリハビリ、レクリエーション、外出等、常に注意実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員からの意見を取り入れて作る。	1ヶ月ごとにモニタリングを実施している。前月のモニタリング内容を職員全員が共有し、気付いたことをメモしておくなど状態の変化を見逃さないよう努めている。毎月のサービス担当者会議において職員全員で意見を出し合い、利用者の状態に応じた計画となるよう見直しを行っている。家族からは面接時に希望、意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、日々の気づきや変化等が生じる場合は、全職員との連絡を申し送りノートを通じ、共有している。 介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の方の希望やニーズの把握に努めた対応をしている。 受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回、相談員と民生委員の方々と協力し、情報等を共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間の連絡も対応出来る様になっている。夜間の利用者の体調の変化に充分に対応できる。	協力医の往診が月1回ある。協力医以外の皮膚科、眼科、精神科等の受診は、職員が付き添っている。協力医とは、夜間の対応をはじめ利用者が適切な医療を受けられるよう関係を築き、訪問看護師と連携しながら、利用者の健康管理にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況に即座に対応、訪問看護の方に連絡相談、健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の主治医・看護師等に、直接または電話で情報を交換し実行している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いは、その都度行う。職員間でも随時話し合うようにしている。終末期ケアも、何件かホームで終末を迎えられた方もおられる。	入居時に、終末期の対応について詳しく説明するとともに、状態に応じその都度話し合いながら、医師や訪問看護師と連携し、家族や利用者の気持ちに添った支援ができるよう努めている。ここ1年では1件の事例があったが、夜勤者一人にしないよう職員体制に配慮し看取りを行っている。	看取りに関する指針の作成について、職員間で十分話し合い、検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを定期的に学んでいる。研修会議等に参加して学び、普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練(昼間、夜間想定)地域住民の方に協力をお願いし、参加していただく。日勤者・夜勤者も参加し消防署職員より、消火器の使い方の指導を実施、消火訓練も行っている。	運営推進会議では、地域の方から火災の際にはどのような対応が必要かなど協力を前提とした意見も出ており、地域の防災協力員も決まっているなど、地域との相互協力の関係を築いている。今後、火災だけでなく、それ以外の災害に対する対応についても、消防署と話し合って検討していくこととなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等に記入する時には、個人名を出さずに記入している。 職員間の会話の中でも、個人名は出さずに会話している。	利用者への声かけは、基本的には名字に「さん」を付け呼んでいる。また、職員間の会話においては、個人名を意識的に出さず、「〇号室」の方とようようにしている。職員会議において振り返りを行い、事例を挙げて確認しながら不適切な対応があれば改善するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの希望や想いを第一に尊重している。 自己決定の実現に常に心がけて、介護をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの希望を聞きだしている。 入居者中心という考えを持って応えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	車椅子使用と足元が不安定な方が多い為、不定期に外部から美容師を招いて、ホームで理美容サービスを受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歩行が可能な入居者は、食後の下げ膳が出来ている。 入居者から、メニュー希望を取っている。 ホールテーブルを使って、電気プレートでホットケーキ等を作って楽しめる。	日頃の利用者との会話から食べたいものなどを把握し、職員で相談しながら、1週間分の献立を作成して、職員が交代で調理し提供している。食事中は軽音楽を流し、会話をしながら楽しく食事ができるようにしている。なお、食事前に全員の手の消毒を受け持ってくれている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に、食事の摂取状況を記録している。 水分量は記録していないが、1日1200～1500mlを確保できるように、ほうじ茶、コーヒー、ココア、梅茶等、希望に添うように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯使用の方は、毎食後洗浄と口腔ケアをしている。 毎食後、歯磨きを介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員同士、同じ対応が出来るように、話を絶えず取り合って、排泄の誘導と支援を行っている。	排泄表により利用者それぞれのパターンを把握して、トイレ誘導を行っている。利用者の尿意や便意がある際の動き、表情、しぐさについて職員間で共有し支援にあたり、なかには、オムツが必要な状態で入居したが、現在日中は紙パンツの使用で過ごすことができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員個別に排泄パターンを理解し、便秘対応している。 下剤使用の方がいる。 毎日、水分補給を充分にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おき、汚染時には随時対応している。 本人の希望にも対応。体調に合わせた入浴を実施している。	入浴を拒否する利用者には、着替えだけにして次の日にする、足浴をするなどの対応を行い、少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。また、車椅子利用者の方でも、本人が希望すれば介護者を増やし浴槽へ入れるようにするなど、利用者の気持ちや状態に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の電気の消灯等は、個人の好みで差があるので、個別の要望に応え、安心して眠れるようにしている。 夜間の徘徊者や大声を出す利用者があるので、夜勤者が見守り・対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬内容の記録のファイルを作り、いつでも誰でも必要な時に情報を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度に差があるため、個別に出来ることを本人の役割にさせて頂いている。 洗濯物たたみ、食後の片付け、カラオケ、ぬり絵等、一人ひとりの希望、特技を取り入れて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に応じ、個別に職員と共に外出している。 家族の協力を得ながら、自由に外出している。	建物前のスペースを利用しての外気浴やお茶会、近所への散歩や花見など、利用者には戸外で過ごすことを楽しんでもらえるようそれぞれの状態に合わせた支援に努めている。また、誕生日には家族で外食に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使い方を理解できない方は、支援できない。 買い物希望のある方は、個々にその都度、課職員と共に出かけられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の方は、自分の名前も書けない。 会話も不可能な方がいる。 面会に来られるように、家族の方に依頼することもある。 不可能な利用者様には見守り、一部介助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのテレビの音量には常に気配りしている。 居心地よく過ごせよう、工夫している。	事業所内では猫や子犬が飼われており、利用者はホールなどで動物との触れ合いを楽しんでいる。ホールの壁には、くつろげる空間となるよう利用者の塗り絵なども飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間において、一人になれる場所はない。 ホールは食堂として、テーブルを設置する広さである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望する写真を飾ったり、入所者の作品を飾って楽しめる。	空気清浄機やテレビなどが持ち込まれている居室もある。利用者にとって居心地よく過ごせる場となるよう利用者が自分できることを大切にしており、率先して自分で床などを清掃している方や衣類をたたんでケースに整理している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、浴室、トイレには手すりが付いている。 転倒等の事故発生はしていない。		